



e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』 日本語放送 メールマガジン (第42号)

2006年8月23日発行

HCJB日本事務所 正式に発足

まぶしい真夏の太陽で水面を光らせる東京湾。その周辺を「ゆりかもめ」が若者や家族連れを満載して走ります。国際展示場正門前で下車すると目の前がビッグサイト。恒例のハムフェアは今年で30周年を迎えました。いつものように日本短波クラブのコーナーに直行するとHCJBのタペストリーがすぐ目にとまりました。そこでは大武さん、山田さん、石川さん、赤林さん、佐野さん、丹野さんなどの面々が控えておられ、テーブルにつくと早速私の前にヌーウと最初にあらわれたのが北海道からこられた原田さんでした。「1975年以来聞いていました。一時ブランクがありましたが放送が再開されまた聞きはじめました。きょうはお会いできてやってきました。」京都からの永野さんも「毎週欠かさず聞かせていただいています。1973年からのリスナーです。」1964年からずっとHCJBを聞いておられる埼玉の林さんがおられるかとおもえば、長野の河合さんは「1964年に日本語放送と同じ年に生まれました。はじめてお会いできてうれしく思います。」東京の大野さんは「BCLをはじめて30年。ようやく会えました。」とおたがいに初対面。39周年の特別放送からBCLを再開した埼玉の松本さん、BCL歴47年目の群馬の鈴木義一さん、新潟の金子さん、千葉の長野さん、横浜の宮嶋さん、今野さん、青木さん、横須賀の井上さん、宇都宮の佐藤さん、愛知の近藤さん、三鷹の桜井さん、帰りに呼び止められた町田の池田さん…。みなさん本当によく来てくださいました。会場ではエクアドルからとどいた日本人が育てたバナナが配られました。8月26日の土曜トークで紹介される「田辺農園は、今」の放送を前に田辺農園主のご厚意でとどいたものです。



翌日曜日、東京新宿副都心のオアシス淀橋教会では、HCJB日本語放送再開による日本事務所開設のために来日されたデニス・アダムス師夫妻の紹介と挨拶がありました。午前中の主日礼拝のなかで峯野牧師から淀橋教会とHCJBの間で合意書が交わされたことが正式に発表され、HCJB日本事務所の責任者となる新川代利子副牧師の任命式が行われました。席上HCJB国際局長カート・コール氏からの次のようなメッセージが読まれました。

「このたび、2000年末でいったん終了したはずのHCJB日本語放送が無事に再開できたことは、ひとえに淀橋教会の特別な犠牲的協力のたまものとHCJB国際放送スタッフ一同深く感謝しています。南米エクアドルから太平洋をひとまたぎしてオーストラリア大陸から日本語放送が『よみがえる』とは誰も予測しなかったことであり、このようなかたちで実現できたことは、不思議な主のお導きというほかはありません。淀橋教会は、尾崎道夫夫妻をHCJB音楽宣教師としてエクアドルに送り出し長年忠実にご支援くださっており、それに加えて放送の分野にもこれから積極的に参加いただけることは、尾崎宣教師とともに宣教放送に取り組んできた私にとっては二重のよろこびです。峯野主管牧師はじめ新川副牧師ならびにご奉仕いただいている教会員の皆様方にこころからお礼を申し上げます。これからも同じ主に仕えるものとして、HCJB家族一同世界宣教の使命に立つとともに邁進する覚悟でありますので、なにとぞよろしく願います。」

礼拝には北海道の原田さんと京都の永野さんが出席くださいました。教会の地下ホールでいっしょに教会特製のカレーライスをいただいたあと、用意された応接間で教会員の高木茂さんを交えてインタビューを録音させていただきました。高木さんはもと八重洲無線の営業を担当しておられた方だったので、同社の受信機を購入して使用した経験のある二人にとってはまたとない機会です。BCLブーム当時の思い出話に花が咲

きました。京都に帰られた永野さんは折り返しメールでそのときの感想を書いてこられました

「皆様にお出会いましたことは、この夏一番の思い出になりました。教会は大変美しく、そして大きくてびっくりいたしました。大礼拝堂の天井の高いこと高いこと。(驚!)それから、教会で返信業務を担当しておられる方たちの事情もよくわかりましたので、HCJBの放送を聴取し、受信確認証を心待ちにしているリスナーには、今しばらく待っていてくださいということをお知らせして、また私のブログで伝えたいと思います。尾崎祐二 & みちほ様とはお声だけでしたが、このたびお目にかかれて嬉しかったです。アボリジニの民族楽器の演奏をありがとうございました。あんな大きなもの、大変でしたでしょう(笑) 放送では、また時々ご登場いただき、お声をお聞かせ下さい。」

これからの私の日程ですが、8月26日(土)に大阪地区のリスナーの皆様にお会いしたいと思っています。27日(日)は昭和聖書教会(堺市浜寺昭和町)の礼拝。28日は長年「BCL広場」を発行してBCL情報を提供しつづけてくださった野呂俊彦さんをお訪ねする予定です。9月2日(土)は山形地区のリスナーの皆様が山形市に集まって下さいます。3日は山形第一バプテスト教会(山形市東原町)の礼拝。帰京したら関東地区の皆様にお会いして9月10日(日)にはシカゴにもどる予定です。

なによりもこの夏の経験で、放送が「送りっ放し」ではなく、心と心、肌と肌をふれあって交流出来るメディアであることをあらためて強く感じさせられました。これからも双方向で、おたがいがその思いが通じあわさることができる番組づくりをめざしていきたいと、私自身決意をあらたにさせられています。

HCJB日本語放送担当

在 尾崎一夫 久子

HCJB日本語放送(オーストラリア送信):

放送日時: 毎週土曜日、日曜日
日本時間 0730 - 0800 (2230 - 2300UTC)
送信周波数: 15525 kHz (19mb)
受信報告書の宛先: 〒169-0073
東京都新宿区百人町1-17-8
淀橋教会HCJB係
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mnz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2006 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>
Eメール: kozaki@hcjb.org
郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki
1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
